

論文作成メソッド講義（全7回）

憲法 1回
民法 1回

刑法 1回
商法 1回

民事訴訟法 1回
刑事訴訟法 1回

行政法 1回

論文作成メソッド講義は、科目ごとの論文解法パターンを4Aを用いて学ぶことによって、各科目の特徴に基づいた論文式問題の「問題文の読み方」「答案構成方法」「答案の書き方のイメージ」を把握する講義です。また、予備試験・法科大学院入試の過去問等を用いることによって、論文解法パターンの使い（分け）方を実践的に習得できます。

法律基本科目答練（全47回）

基礎答練

憲法	5回	民事訴訟法	4回
民法	9回	刑事訴訟法	4回
刑法	7回	行政法	3回
商法	5回		

法科大学院入試レベルの基礎的な問題を、比較的狭い範囲指定で出題します。論文作成メソッド講義で習得した論文解法パターンを確立し、どのような問題でも安定して使えるようにします。

応用答練

公法系	3回	刑事系	3回
民事系	4回		

法科大学院入試の難問や予備試験範囲・科目横断的な応用問題を、“民法総合”といった広い範囲指定で出題しますので、本試験直前期のシミュレーションができます。併せて、基礎答練で確立した論文解法パターンを、応用的な問題でも使いこなせるかを確認してください。

>> 答練スケジュール

答練（120分）

120分という標準的な制限時間で、論文式問題の答案を作成します。本試験と同様に、六法（条文）しか参照できない状況で、実践力を鍛え上げます。毎回、目標を立てて目的意識を持って答練に臨めば、飛躍的に実力が向上します。

解説講義（60分）

4Aに基づいて、答練問題をどのように読み、どのように解くべきだったのかという実践的な解説講義をします。自分の問題の読み方・解き方と照らし合わせて、パターンの使い方を実践対応にしていきます。

法律アプローチ講義（全47回）

基礎講義

憲法	5回	民事訴訟法	4回
民法	9回	刑事訴訟法	4回
刑法	7回	行政法	3回
商法	5回		

法科大学院入試レベルの問題を確実に解けるようにするために、論文問題を解くパターンの確立という観点から、科目・指定範囲ごとに、法的知識を条文単位で整理します。

応用講義

公法系	3回	刑事系	3回
民事系	4回		

予備試験で出題されうる範囲・科目横断的な応用問題にも対応できるように、広く系統別に、法的知識を条文単位で関連づけながら整理し、応用問題の演習を行います。

>> 講義スケジュール

復習講義

前回の法律基本科目答練の問題を、条文単位で復習する講義をします。論点単位の知識を、条文単位に整理し直すことで、論文本試験現場で手元にある六法（条文）を見れば、関連する知識を思い出せるようにします。

予習講義

まず、次回の答練の指定範囲内の論文式問題を、時間を測って答案構成していただいた上で、その解き方・答案の書き方を解説します。最後に、論文式対策にも役立つ短答式問題を演習します。講義では、解き方・答案の書き方を解説していきます。